

製品安全データシート

会社名 サンライ株式会社
住所 東京都千代田区神田和泉町1-9-8 木村ビル4F
連絡先 TEL03-3866-2476 FAX03-3864-8655
作成・改訂 平成15年2月19日

整理番号. 1017

製品名 クリアポイントS

物質の特定 単一物質・混合物の区別：混合物 530ml

成分名

原液 石油系炭化水素
エチルアルコール
噴射剤 液化石油ガス
二酸化炭素

以上100%

国連分類： class 2 (高压ガス)

国連番号： 1950 (エアゾール)

危険有害性の分類

分類の名称：引火性物質、可燃性ガス、急性毒性物質、その他の有害性物質

危険性：引火性液体（消防法第4類第1石油類）と液化石油ガスとの混合物のため、空気との爆発性混合ガスを形成する。

有害性：蒸気吸入すると、麻酔剤として働き、鼻や喉等の粘膜への刺激、めまい、感覚鈍麻、頭痛などの恐れあり。有機溶剤中毒を起こす恐れがある。

環境影響：生分解性にくい物質を含む。

救急処置

眼に入った場合：直ちに清浄な水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。出来るだけ早く医師の診察を受けること。コンタクトレンズを洗っている場合は、固着してない限り、取り除いて洗浄する。

皮膚についた場合：付着物を布等で素早く拭き取り、大量の水、石鹸又は皮膚用の洗剤等で十分に洗い落とす。もし皮膚に炎症等異常を生じた時は、医師の手当てを受ける。

吸入した場合：新鮮な空気の場所に移し、安静にし、直ちに医師の手当てを受ける。また、呼吸停止の場合は、直ちに呼吸吹き込み又は器具による人工呼吸を行う。

飲み込んだ場合：揮発性液体なので、吐き出させるとかえって危険である。

安静にして、直ちに医師の手当てを受ける。

災害時の措置

消火方法：初期火災の場合、粉末・炭酸ガスなどを用いる。

周辺火災の場合：移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合は、

消 化 剤 : 容器及び周囲に散水し冷却する。
ABCまたはBC型粉末消火器、二酸化炭素、ドライレミカル。
着火した場合 : 約50℃以上に加熱されれば破裂や爆発の危険が生じ、人身事故の可能性が生じるので速やかに避難する。特に大量の場合は、後の消火作業は消防署員にまかせたほうが無難である。

漏出時の措置

: 乾燥砂、乾燥土、その他不燃性の物に吸収させ回収する。
: 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
: 室内は開放換気する。充満時に換気扇などを入・切電するので爆発・火災の原因となることがある。漏出物は低い所に滞留するので箒などで掃き出すのがよい。
: 付近の着火源（火気、高温体など）や可燃物を速やかに取り除くこと。
: 漏出物は、密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
: 作業の際には、適切な保護具を着用すること。
: 排水溝、河川等に排出しないように、環境への影響を起こさないように注意する。

取り扱い及び保管上の注意

取り扱い : 人体にはスプレーしないでください。
: 炎に向けて使用しないこと。
: ストープやコンロ等火気の付近で使用しないこと。
: 火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
: スプレー缶の記載の注意事項は必ず読んでください。
: 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用し、出来るだけ風上から作業する。
: 室内で使用の場合は、充分に換気の良い状態で使用すること。
: 蒸気の発散を極力抑えるために、みだりに噴射して洩らしたり、拭き取った布や紙を室内に放置することは避けて下さい。
: 容器は、落下させるなどの衝撃を与えないように気を付けること。
: 保管 : 直射日光を避け、温度が40℃以上となるところに置かないこと。
: 高湿度な場所を避けること。

暴露防止措置

設備対策

: 保護具の着用が望ましい。
: 閉鎖された狭い空間では大量に使用しないこと。
: 取り扱い設備は、防爆型を使用すること。
: 取り扱い場所の近くには、高温・発火源となるものが置かれないうような設備とすること。
: 屋内作業の場合は、局所排気装置等により作業者が蒸気等の暴露から避けられる設備とすること。

保護具 : 有毒ガス用防毒マスクを着用すること。密栓場所では、送気マスクを着用する。
: 保護眼鏡を着用する。
: 耐油性保護手袋 (塩化ビニル・ネオプレン・ニトリルゴム) を着用する。

物理化学的性質

状態 : 液体
臭気 : 石油系炭化水素臭及びエチルアルコール臭
沸点 : 不明

有害性情報

皮膚腐食性 : 皮膚の乾燥、脱脂効果があるため、皮膚炎を起こすことがある。
刺激性 (皮膚・眼) : 皮膚 刺激作用がある。
眼 刺激性があり、結膜炎を生じることがある。
急性毒性 : 飲みこむと肺に吸収され、化学性肺炎の危険を伴うことがある。中枢神経系の機能が低下することがある。高濃度の場合、意識低下をおこすことがある。
慢性毒性 : 反復又は長期に皮膚に接触すると、皮膚炎を起こすことがある。末梢神経系に影響を与え、多発性神経障害を生じることがある。
その他 : なし。

危険性情報

可燃性 : あり (引火点 -104、4℃)
発火性 : あり (発火点 460℃以上)
爆発性 : 低所に滞留して爆発性混合ガスをつくりやすいので、火気のある狭い閉鎖空間では使用しないこと。
爆発限界 : 下限1.0%～上限19.0% (vol%)
自己反応性 : なし。
安定性・反応性 : 安定。

環境影響情報

分解性 : BOD測定法による分解度が0%である物質を含む。
蓄積性 : Log Pow4.55 である物質を含む。
魚毒性 : オオミジンコ EC50 24時間で27.6mg/L、48時間で20.4mg/Lである物質を含む。
その他 : なし。

廃棄上の注意

: 使い切って廃棄すること。
: 火気のない戸外でガス抜きをしてからの廃棄が望ましい。

- : 各自治体での廃棄物分類と廃棄方法に従うこと。
- : 大量廃棄の場合は、廃棄物の処分に関する法律に従うこと。

輸送上の注意

- : 温度が40℃を超える状態で運搬はしないこと。
- : コンクリート地への落下など物理的な衝撃を避けること。
- : 陸上輸送の場合は、消防法・労働安全衛生法の輸送について定めるところに従うこと。
- : 海上輸送の場合は、船舶安全法に定めるところに従う。
- : 航空輸送の場合は、航空法に定めるところに従う。

適用法令

- : 高圧ガス保安法適用除外
- : 消防法（危険物第4類第1石油類 非水溶性）
- : 労働安全衛生法（危険物 引火性の物）
- : 船舶安全法（低引火点引火性液体）
- : P R T R 法

第1種指定化学物質： 該当せず

第2種指定化学物質： 該当せず

その他

- 引用文献 : 製品安全データシートの作成指針（日本化学工業協会）
- : 化学品安全管理データブック（化学工業日報社）
- : 原料メーカー提出資料 他

* 製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取り扱い業者に提供されるものです。取り扱い事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講じることが必要であることを理解したうえで、活用されるようお願い致します。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。